

【提言】 「共助」のための合同避難訓練と 高校生の防災資格の取得

グループメンバー

No.

1

提言しようとする背景

近い将来、僕たちには大地震の危険が迫っています。防災について湖西市や浪江町の方にもお話を伺い、「自助」と「共助」が大切だということを学びました。

もし今震災が発生したら、大人は仕事で地域の外に出ていることも多く、一番動けて市のことを把握しているのは自分たちだと思います。そのため、「共助」という視点で自分たちにできることはないかと考えました。

宮城県築館高等学校の事例では、東日本大震災を経て出た課題を活かして、一人暮らしの高齢者や要配慮者の安否確認や本部からの情報を伝えて回ったり、一人で避難が難しい人の車椅子での避難を介助したりするなどの訓練をしています。市民からも、高校生は力があってとても助かるとの声がありました。

そこで、震災時に高校生が「共助」の力になるために、小中学校・幼稚園・保育園や高齢者・障がい者等の施設との合同避難訓練、そして防災士等の防災資格取得を目指すということを提言します。

提言の内容

新居高校は海から近く、災害時にはハザードマップによると2、3メートルの津波が来ると予想されています。そのような災害時には、避難所での生活が余儀なくされ、「自助」だけでなく、「共助」が大切になってきます。

現在、僕たち新高高生は市民の方との交流があまりないと感じています。震災後は、恐怖や動揺で精神的に追い詰められる状況になると思います。もし、目の前に助けられる命があったとき関わりのある人であれば、人間の心理として即座に判断して救助ができると思います。そのため、震災の際に弱者とよばれる高齢者や障がい者、幼児の方々と交流を持つことが「共助」につながるのではないのでしょうか。また「共助」の際には多くの力が必要になります。そのため、小中学校に通っている子どもたちとも連携を取ることが重要だと思います。

以上のことから、小中学校・幼稚園・保育園や高齢者・障がい者等の施設との合同避難訓練を提言します。

また、徳島県の事例では、「防災士」の育成講座を開いて高校生や教員の資格取得を支援しているとの記事を見たことがあります。防災士は、避難所の設置や救護者の介護などのサポートを専門的に学び資格をもっているため、何もやったことがない一般の市民よりスムーズに動けると思います。

防災士になるには、「防災士研修講座受講履修証取得」をとり「資格取得試験」で合格する必要があります。その後、「救急救命講座」を受講し修了証を取得することで防災士になることができます。

このようなことを湖西市でもできないでしょうか。資格取得は難しいとしても、中高生を対象に避難所での支援体制や救護者の介護方法などの講座を開き、知識を増やすことが大切だと思います。僕たちが実施したアンケート調査でも、防災対策として防災訓練や救命講習会、機材の準備などを行いたいという回答が得られました。避難に時間がかかるとより混乱が大きくなり、天候によっては雨風に打たれることも考えられるため、知識を身につけることで僕たち高校生が力になれると考えます。

【提言】食料や備蓄の安定した提供方法

グループメンバー

No.

2

提言しようとする背景

新居高校から湖西市民や新居高生に向けて行ったアンケートの結果、市からも備蓄の推奨をされているのにも関わらず、している人は半分にも満たないという結果であった。

浪江町に災害当時のことを伺ったところ、備蓄が無いというのは、身体的にも精神的にもかなり辛いもので、用意しておくことは必須だということを知った。

提言の内容

・インターネットを通して各家庭や個人が備蓄品の発注を行うことができるようにするなど、市が仲介役となり、協力していただく業者に発注をかけ、各家庭に向けて商品を配達する。

【期待される効果】

- ・備蓄の用意をきっかけに、防災意識の向上が見込める。
- ・各家庭で備蓄の用意ができていれば、緊急時でも、身体的、精神的な安心が見込める。
- ・避難所生活でも、食料や備品への混乱を最小限に抑えられる。

【提言】外国籍の方も災害時安心して暮らすことができる

環境づくり

グループメンバー

No.

3

提言しようとする背景

・湖西市の人口は約58550人、湖西市に住む外国人の人口は2249人とかなり多い方だと思う。しかし、町中にあるハザードマップや看板を見ても外国の方はよく理解できないのでは??と考えた。

以前、浪江町の方にお話を聞いたところ、東日本大震災で被災した浪江町でさえ未だに多くの言語で作るよう進めているとのこと。
 ・役員の英語理解ができていない地域が多いと、浪江町の方に伺った際、それなら防災のことに投資していったほうが良いとアドバイスをいただいた。

・前回浪江町の方とお話しをさせていただいたときに災害時の外国籍の方への対応が全然できなかったとおっしゃっておいりました。それを聞いて湖西市ではどのくらい外国籍の方への対応を考えているのかを知りたいと思ったのと、前回お話しをさせていただいた時にはハザードマップの多言語化を考えているとお聞きしましたがその他にもできるのではないのかなと思い提案させていただきました。

提言の内容

外国の方にもわかりやすい災害用看板等の取り組みとしてピクトグラムの使用や目を引く色の使用。
 ・ピクトグラムを使用したわかりやすい看板、マンホールを災害案内に有効活用していく取り組み。
 →これらを観光にも利用し、地域の活性化も同時に目指す。

【期待される効果】

・外国人がわかりやすいだけでなく普段看板等に目を向けてこなかった私達も注目し目を向けるようになる。
 ・外国の方の支援を手厚く行う意味は??
 →地域の活性化、グローバル化の促進、多様性のある社会の実現、アピールにも繋がる。
 =湖西市への注目もup!!
 ・観光にも力を入れている湖西市のターゲット層は外国の方が多いのでは??いざ何かあっても避難場所へスムーズに移動できる。外国の方のことを考えていると印象を受けイメージupに繋がる。
 ピクトグラム等の使用は外国の方だけでなく、子供や文字が読めない方、お年寄りの方への寄り添いでもある。

【提言】避難生活シミュレーション

グループメンバー

No.

4

提言しようとする背景

- ・災害時の生活が想像できないことが課題だと考えた。
- ・小中学生に自立の考えをもってほしいとともに共助の考えを持ってほしいと思ったから。
- ・この活動を通して、小中学生が避難生活で周りの方々をサポートできる存在になってもらうことや、災害に対する危機意識を持ち、対策や興味を持つことを期待している。
- ・自分が住む地域の危険を知り地域を大切に思ってもらいたい。
- ・災害時に対応するには、より年齢の若い頃からの訓練が必要であると考え。
- ・小中学生が経験したことは家族に伝わりやすいという教育効果が考えられる。
- ・小中学生は、自分の地域における防災訓練となるため、当事者意識を持って、取り組むことができると思う。
- ・高校生と異なり、小中学生は湖西地域出身者で占められている。
- ・この活動を通して、行動力が身につくと思う。

提言の内容

災害後シミュレーション授業 例1:体育館避難所設営体験 トイレ設営体験 シャワー設営の経験 例2:サバイバル体験 例3:ボランティアの方々との連携について考える授業 例4:安否確認の方法について探る

【期待される効果】

- ・体験することでもし災害が起きたときになにが必要かが予測できる
- ・今準備しているもの以外で何があったら便利そうかがわかる
- ・小中学生が経験を生かして、避難所などで周りの方をサポートできる存在となる。しかも、将来に渡って防災意識の高い人材が育つ。
- ・小中学生にとって、災害時における共助の精神が身につく
- ・小中学校での防災訓練での学びが、家庭地域に広がる。